

平成28年度学校教育審議会（第3回）議事録

1 日 時 平成28年12月1日（木） 午後1時30分～午後4時

2 場 所 福島県庁本庁舎5階 正庁

3 出席者数 11名

4 出席者

小沢 喜仁 委員	菅野 誠 委員	菊池 克彦 委員
佐治 和則 委員	佐藤 浩子 委員	杉内 亜希 委員
錫谷 和子 委員	中山 美華 委員	早川 正也 委員
森 涼 委員	和合アヤ子 委員	

5 資料

資料は下記①～⑨のとおり。

- ① これまでの県立高等学校改革計画の取組・課題と審議会委員の意見
- ② 学校教育審議会部会（第2、3回）における主な意見等について
- ③ 中高一貫教育校における入学者選抜及び進路状況について
- ④ 福島県学校教育審議会教育公聴会開催概要
- ⑤ 学校教育審議会 審議中間まとめ(案)
- ⑥ 県立高等学校入学者選抜の検討状況について
- ⑦ 福島県学校教育審議会の当面のスケジュール
- ⑧ 頑張る学校応援プランのたたき台
- ⑨(参考資料) 福島県の教育の現状分析-SWOT分析のバックデータ集

6 開 会

委員11名の出席を得て、午後1時30分に開会。

7 報告事項

教育総務課長より、委員の解嘱及び委嘱について報告があった。

8 議事録署名人の決定

9 議 事

- (1) 部会（第2回、第3回）審議内容の報告について、
中高一貫教育校における入試の実施状況について

[議長]

8月に第2回の審議会を開催し、今回で第3回の審議会となる。この間、9月と10月に部会を開催し、中間まとめについて審議を行った。本日の審議会において「中間まとめ」について審議を行う予定である。

事前に事務局より委員へ素案を送付し意見を伺った。本日の資料はその御意見を反映したものである。

資料②は9月23日の第2回部会、10月28日の第3回の部会の内容となる。そ

こでの御意見等について報告する。(資料②により説明。)

[高校教育課長]

資料③について説明。

(2) 中間まとめについて

高校教育課長から、資料⑤により説明があった。

[議長]

まず、「はじめに」と「Ⅰ」「Ⅱ」について審議したい。記入漏れ等はないか確認いただきたい。送付されたものから各委員からの御意見を踏まえた修正がなされているようである。よろしければ、ⅢとⅣに移り、これらについて時間をかけて審議したいと思う。まず「Ⅲ 県立高等学校改革の視点」について御意見いただきたい。

[委員]

「1 今後の県立高等学校教育の在り方 (5) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上」については、より具体的な記述が必要ではないか。校内研修等についても学校任せにするのではなく、教育庁の指導が担当して行っていくという力強い記述があった方がよい。

[議長]

その点についてどのように考えるか。

[委員]

教育とは教員に因るところが大きいので、確かに果たしてこの記述で十分なのかという疑問は持つ。

「1 今後の県立高等学校教育の在り方 (1) 学力向上に向けた取組の推進」において、「学習評価の充実」とあるが、学習評価の充実によってどのように学力をつけるのかという疑問を持ち、腑に落ちない。それはあくまでも過程、手段である。評価を経てどうするのかという観点がなければならない。

[議長]

お二人の御指摘は共通する部分がある。いずれも書き足す必要があるということである。事務局としてはどうか。

[高校教育課長]

御指摘のとおりであると思う。基礎力をつけさせ、それをどのように発揮させるか、どのように有効とするかの過程において評価があるのだと改めて認識したところである。加えてコミュニケーション能力、課題解決能力の育成も必要であると感じた。「(5) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上」については、より明確化した記述としたい。第4回までに準備をし、最終的には答申に踏まえていただけるようにしたい。

[議長]

視点ということなので、これらを踏まえながら作成していくということであろう。ただ項目立てしたからには具体的取組が必要となる。新課程においてアクティブ・ラーニングは必須であり、研修の内容も深めていく必要性もある。

【委員】

「学力」「体力」「心の問題」は理解できる。ここになぜ「(4) グローバル化する社会に求められる資質の向上に向けた取組の推進」があるのかよく理解できない。教育力とは学力の向上を意味するのではないか。基礎基本の徹底が前提となっているのかどうかここでは見えない。学力の向上を目指してアクティブ・ラーニングを行うのか。社会的要請の大きい外国語能力の向上は学力の一つであると言えるのではないか。

【高校教育課長】

御指摘のとおり基礎基本の充実とともに、変化する社会情勢の中で求められる能力をどのように育成していくのかを考えたい。その一つがコミュニケーション能力であり、指導の一つの指針がルーブリック評価であることも踏まえた上で、少し整理する時間をいただきたい。

【議長】

学力というものに対して皆さんがお持ちのイメージはそれぞれ異なることもある得る。項目立ての工夫が必要であると思う。アクティブ・ラーニングの基本方針に関わることは整理が必要と思われる。全体に関わること、個別的なこと、その一つがグローバルということであると思う。そのことについてどのように考えるか。

【委員】

英語だけ先走ってしまう傾向には疑問を持っている。あくまで国語をしっかりと学んだ上で外国語を学習するべきだと思う。

【委員】

グローバル化に向けた取組としては、「3 学校の魅力化(2) ふくしまの未来に向けた復興教育の推進」ともっとリンクさせるべきである。本県の復興を支え、発信していくのは子ども達である。他の地域とは違った、ふくしまでこそできるグローバル化の取組が必要である。

【議長】

みんなで発信していくことは重要である。最近、大阪あるいは中国の人と話をしたが、福島への理解は随分と異なるものだと実感した。これからを担う子ども達がコミュニケーション能力や発進力を身に付けることは重要である。一部の大学では、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーという、入学、教育、出口において方針を打ち出しているところも存在する。TOEICの基準を設けているところもある。復興もグローバル化の視点で行う必要がある。

【委員】

先日、高校教育課主催の第1回プレゼンテーション大会が開催された。コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力の育成を図る、素晴らしい取組であったと思う。このような機会をもっと子ども達に与えたいと思う。そして復興も絡めて海外プレゼンさせたい。日本には気づかないことを海外で初めて気づくということも多い。貴重な機会となるはずである。そのようなよいきっかけとなる大会であったにもかかわらず、観客がほぼゼロであったことは残念だ。

【議長】

しかけづくりとなるよい取組が実現できるよう文章に盛り込むべきである。

【委員】

グローバル化の推進やコミュニケーション能力の育成については大賛成である。しかし、少し異なる視点についてもお話ししたい。

先日ある幼稚園の先生が保護者からの苦情を受けた。しかしこの先生は保護者とどのように接してよいのか分からなかった。成長する段階で接した大人たちは、両親と学校の先生、塾の先生のみであった。グローバル化とは別のコミュニケーション能力も大事であることを強調したい。

この会においても20年後は現在ある職業の半分はなくなるとの話があった。先行きが不透明な社会の中で子ども達が身に付けるべき能力は「課題解決に向けた主体性とそのことに意欲を持って取り組むこと」である。「主体性」や「意欲」については特出しする必要がある。

【委員】

イギリスはEUから離脱することとなり、またアメリカも内向き志向となりつつある。英語ができることとグローバル化に対応できるかどうかは同じではない。先ほどの委員も仰った、主体性や意欲、そして困難に立ち向かうたくましさが重要である。英語を話そうにも中身がなければ話せない。グローバル化に対応できる人とは話したい内容をしっかり持っている人である。そのような内容も入れてもらいたい。

【議長】

基本的な態度、資質についてはビジネスマン教育においても重要性が指摘されている。視点の部分で入れていく必要がある。

【委員】

どの項目がふさわしいかは分からないが、グローバル化と同じく、社会の大きな変化の一つに「情報化の進展」があると思う。中身だけではなく、情報のインフラや学校への配置など、社会の動向を見据えた対応が必要である。そのような記述も必要であると思う。

【議長】

高校の現状はどうか。

【高校教育課長】

小高産業技術高等学校においては産業革新科を新設した。そこにはICTコースを設け、最新の機材を利用して学習する環境を整備している。またふたば未来学園高等学校においては、一人一台タブレットを配付し、アクティブ・ラーニングの実践における活用を行っている。工業系、普通科系等においてもコンピュータ室の充実化が図られており、情報化が推進されている。重要な御指摘であるので付け加えたいと思う。

【議長】

学生に質問をすると、考えることなくタブレットで調べる。便利なツールではあるが、一方でその利用については気をつけるべきこともある。

【委員】

P. 3の40行目に「高等学校においても特別支援教育の充実が求められている」とあるが、視点にはどのように入れるのか。

【高校教育課長】

勿来高校にはいわき養護学校のくぼた校が併設されており、1～3年生まで18名が学んでいる。さらに来年度より船引高校に田村支援学校石崎校舎が併設される。視点にも改めて記述することとする。「地域で共に学び、共に生きる教育」の視点を「3学校の魅力化（2）ふくしまの未来に向けた復興教育の推進○求められる役割や特色を明確にした学校づくりの推進」の内容を膨らませて付け加えたいと思う。

【議長】

産業の視点から関係する委員に伺いたい。

【委員】

小高で新しく学校が開校する。情報化を進めると共に地域の魅力も発信にも協力していきたい。

先ほどタブレット等の話が出たが、違った側面についても述べておきたい。タブレットは便利な機器ではあるが、そのせいで鉛筆を持つ機会が減り、正しい持ち方ができない、あるいは字が書けない子ども達が増えたという問題も出てきている。情報化の一方でそのような従来の文化も大切にすることを明記していただきたい。

【議長】

漢字が思い出せないことは我々にもあるが、子ども達は身に付ける訓練を重ねていないのでそこにすら到達していない。アナログの残し方というのも重要である。スモールグループでのディスカッションも結局はアナログなものなのである。そのような現状からすると本来、小・中学校で行うような実践的取組を敢えて入れるということもあり得るのではないか。野口英世賞の審査も行っているのだが、最近応募者が資料に写真を使用することが多い。しかし写真を活用するとしても、写真の撮り方に改善が必要な状況で、形の抽出ができていないのである。工業図鑑は写真によるが、植物はイラストが一般的である。アナログの残し方が重要である例の一つである。

【委員】

P. 5「2 望ましい教育環境の在り方（3）多様な学習機会の充実や就学への支援」について質問したい。学びなおしの意味で定時制、通信制の高校の重要性は高いと思われるが県立高校で言えば、通信制課程に該当するのは郡山萌世高校のみであると思われる。充実とはどのような意味か。

【高校教育課長】

仰るとおり郡山萌世高校が県内唯一の通信制課程の高校である。それぞれの地区に連携協力校が存在し、休日を中心にスクーリングを行っている。例えば会津地区であれば会津大学へ教員が出向いて授業を行っている。今後協力校とどのようなことができるのか、ということを含め充実とした。

【委員】

P. 5「3学校の魅力化（2）ふくしまの未来に向けた復興教育の推進」に「○求められる役割や特色を明確にした学校づくりの推進」とある。これは小項目となって

いるが、「役割や特色の明確化」は最も重要なことであると思う。うちの学校に来れば、大学進学が可能になる、英語が話せるようになる、この地域に就職ができる、など。改革や再編に関しては、役割や特色の明確さが必要だ。

【委員】

そのとおりであると思う。学力、あるいは産業人材育成に力を入れる、などの学校の特色化に関しては、学校や地域任せにするのではなく、県が主導して明確化した上で、学校や地域を支えていくことが望ましいと思う。

【高校教育課長】

御意見を踏まえ「○」の項目を（１）～（３）と並列して記述するようにしたい。産業人材育成を目指す、進学に重点を置く、あるいは特別支援に関した項目などに修正した形で御覧いただきたい。

【議長】

今の御意見は教育のビジョンを作りながら、それに基づいて学校に特徴を持たせたり地域に対する配慮を行うということである。高校は大学に入る手段というだけでなく、そこで学ぶべきことを強調していく必要がある。子ども達にも達成目標を持ってもらうことはよいことである。

次にⅣについてはどうか。

【委員】

「２ 県立高等学校改革の基本方針（１）」において、「望ましい規模を１学年４学級以上とする」と明言している一方で、「１学年８学級規模の学校の学級減を検討する」との記述はトーンダウンしている。明確な数字を示してもよいのではないか。

【委員】

私も同じ意見である。８という数字の位置づけが分かりにくい。現在の適正規模が４～８学級であるとの前提を知らなければ理解できない表現となっている。「現在最大８学級となっている」等の文言を入れれば分かり易いと思う。

【議長】

それでよろしければ文言等は調整をお願いしたい。

【委員】

「１ 本県高等学校教育の在り方」の１つ目の「○」にある「福島ならではの生き抜く力を育む教育」とは何を言わんとしているのか。それと２つ目の「○」は必要なのか疑問を持つ。

【高校教育課長】

目標とすべき「地域と共に地域を支える人づくり」「本県、日本、ひいては、世界を牽引する人づくり」の言わば裏側に相当する人づくりが地域作りに繋がるという意味である。

【議長】

確かにこの部分は抽象的であると思う。改革の目的は具体的に、との御意見ということではよろしいか。

【委員】

同じことの表と裏ということであれば、敢えて記述する必要はないのでは。それと高等学校教育の在り方として地域づくりを推進するというのはおかしい。人を育てて、その上での地域づくりを支えていくということではないのか。

「福島ならではの生き抜く力」の定義をはっきりさせておかないと、基礎力はおろそかにしてもよいという意味に繋がりがかねない。そこははっきりとさせてほしい。

【高校教育課長】

承知した。しっかりと入れていく。

【委員】

普通科系と職業系、総合学科の比率は6：3：1となっているが、例えば職業系専門学科を卒業した生徒がその専門性を生かして就職しているか否かについてはどうか。入学時に6：3：1であっても卒業する際はどうか。

【高校教育課長】

今後まさに議論していただきたいことである。産業人材育成の観点において例えば工業高校を卒業した生徒が工業関係に就職しているのか、今後資料を作成するのでその際議論をいただきたい。

【議長】

産業とは時代の変化により影響を受けるものだ。検討が必要であろう。

その他、付け加えるべきこと等があれば。

【委員】

全体的には、今までの意見を踏まえた記述となっておりこれでよいと思うが、一部「課題」と「視点」が対応していない。

【高校教育課長】

御指摘の点を再検討し整合性を高めていきたい。

【議長】

それでは中間まとめについての協議はここまでとする。本日出された御意見をもとに、事務局と相談して修正していく。

(3) 教育公聴会について

高校教育課長から、資料④により説明があった。

(4) その他

教育総務課長から、資料⑦により説明があった。

10 その他

(1) 県立高等学校入学者選抜の検討状況について

高校教育課長から、資料⑥により説明があった。

(2) 頑張る学校応援プランについて

教育総務課長から、資料⑧により説明があった。

【委員】

毎年学力テストの結果が出ると、またか、と思う。小学校においてそれほど高くない学力が、中学においてさらに落ち込むこととなる。特に数学においてその傾向は強い。レポートを見ると生徒の数学嫌いと教員の研修不足が課題であるということであるが、その部分を改善すれば成績は上がっていくとお考えか。

【教育総務課長】

数学の、特に活用の問題と、本日提示していないが、教員の学び合いや研修の機会という観点においてもデータ分析を行っている。学力の高い秋田や福井は教員の学び合いや研修が充実しており、本県としてもそこに手を打つ必要性は感じている。全国学力調査についても、児童生徒の傾向は単純な経年比較では表すことができないが、県教委としても傾向は分析して改善に向けて取り組んでいきたい。

【委員】

健康的な身体が理想的であるのは言うまでもないが、部活動偏重の傾向が強いと思われる。そのような多方面からの視点で捉えることが重要である。

【委員】

現在、子育てを行っている者の代表として感想を述べたい。これを4年間県民と共有して作り上げていくのは素晴らしいことだと思う。これを実現していただけたら福島で子育てをしてよかったと思える。強い意志を持ってやり遂げることをお願いしたい。

【委員】

P. 8「【取組2】震災後に失ってしまった体力・運動習慣を取り戻す」は切実な問題点を指摘していると思う。震災後に部活動を再開した当時は骨折する生徒が多かったのを記憶している。運動嫌いも多く、走り方も独特な生徒が多かった。

昨年、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの「自分手帳」が配付された。個人情報などをどのように扱うのかも含めて具体的な使い方の説明がなかった。どのように活用すべきかを学校としても思案しているが、未だ糸口が見出せないでいる。

【健康教育課長】

貴重な御意見をいただいたことに感謝申し上げたい。「自分手帳」については、昨年配付し、本格的活用はこれからとなる。対象は小学4年生から高校生までと多岐にわたるため、どのような使い方という一つの方法でひな形を示すことはできなかった。

「自分手帳」と同時に活用の手引きも配付したが、実践を通したのではなく、今年各学校で活用した情報を研修会等を通して把握しているところであり、今後更なる活用の資料を作成することを検討している。この手帳を通して健康な身体づくりに取り組んでいきたい。

【議長】

画期的取組である。アクティブ・ラーニングがしっかりと基本に据えられている。保護者も教員も自らアクティブ・ラーナーして捉え、全員で取り組んでいくことが大きな力となる。更なるブラッシュアップも含めて、今後の検討をお願いしたい。

その他なければ閉会としたい。長時間にわたる協議への参加に感謝申し上げる。

11 閉 会